



【放送の内容について】

川が増水する恐れがあるときは、

自動的に放送が流れます。

放送が流れているときは

すぐに川から出て下さい。

【表示板について】

川が増水する恐れがあるときは、

自動的に回転灯および表示板が

点灯します。

点灯しているときは

すぐに川から出て下さい。

〔連絡先〕

兵庫県

神戸県民局

県土整備部

神戸土木事務所

TEL 078(737)2173















昭和十三年阪神大水害 慰霊塔

昭和十三年（一九三八年）七月五日に発生した阪神大水害（梅雨前線、水害、山津波害）は、背後の山々の崩壊、河川の氾濫による大量の土砂をもたらし、神戸市内を埋めつくし、一面の泥海と化しました。

この水害による本市における被害は、死者六百十六名、傷者千十一名、家屋の流失千四百十戸、埋没八百五十四戸、全半壊八百五十二戸、浸水家屋七万九千六百五十二戸（神戸水害誌による）と、莫大の被害をもたらしました。

この大水害における救助・救護・復旧作業は、被災直後から行政はもとより七十万人をも超えるであろう市内の善意の方々の手で行われ、その結果本市の復興は加速度的に進みました。

この慰霊塔は、行政と市民が一体となり復興に取り組みながら、この大水害で亡くなられた方々を、市内外からの救護活動に対して感謝の意を表わすとともに、今後長期にわたり治水・治山に努め、市内外からの救護活動に対してはならないという誓いを後世に伝えていくために、史跡地力を入れ、このような災害を再び起こしてはならないという誓いを後世に伝えていくために、史跡地でもあり、特に被害が甚大であった石井川と天王谷川の合流するこの場所に、水害から二年後の昭和十三年（一九四二年）六月建立されたものです。

この慰霊塔は、平成七年（一九九五）の阪神淡路大震災で被災された方々の仮設住宅があった当番町公所の復旧整備に際し、先づこの大水害の記録を後世への教訓として継承していくために設置しました。

平成十二年四月

神戸市

慰霊塔碑文（原文のまま） *碑文は慰霊塔背後の石壁に記されています

阪神大水害 慰霊塔

神戸ノ地 遺蹟ヲ留メシ山岳ヲ後ニシ 區光明媚 氣候溫和 水陸交通ノ具 一トシテ稱ハラザルハナク 橋ヲナリテ内通トナシ 東リ往ル者 年ニ萬ヲ以テ數フ 山ヲ削リテ屋ヲ築キ 海ヲ畔メテ樓ヲ構ヘ碧瓦 瓦ヲ葺キ 船ヲ泊ラシ 船主ノ船主ノ船主ヲ稱セリ

平治 光王 石井 妙法寺等ノ深川巨艦シ 水勢峻激 大木巨石ヲ擲擲シ 崖防ヲ潰決シ 家屋ヲ流失シ 全 日流トナシ 船足踏キテ溺ルコトヲ足憶ル 幸自是ニ起レルモ 船主ノ船主ノ船主ヲ稱セリ 船主ノ船主ノ船主ヲ稱セリ

天竺ニ連マレキ 聖徳太子位ノ遺シ 智ニ内智全ヲ開ヒ 内外ノ同智有然トシテ集リ 成ハ財ヲ輸シ 運ガ 百年の隆昌ヲ建テ 上ハ以テ聖徳ニ朝イ奉リ 下ハ以テ市民ノ高誼ニ答エント欲ス 善後ノ事設テ 善後ノ事設テ 善後ノ事設テ

大ニ水禍ハ大ナレドモ 其ノ子ヲ救ズバ必ズ死シ 人命ニ因ラズバアライズ 谷戸蓋ニ入りテ山背露ハレ 止マル所ナラシムルハ 豈ニ其ノ性

七ツラシメシコトヲ察ス 萬クハ在天ノ靈 降格シテ其ノ所ニ安ジ 亦以テ我市ヲ護ント云爾

神戸市長 豊田親次郎
正五位勲五等 吉野 平藏撰文

昭和十三年六月

昭和十三年阪神大水害 慰霊塔

昭和十三年（一九三八年）七月五日に発生した阪神大水害（梅雨前線、水害・山津波害）は、背後の山々の崩壊、河川の氾濫による大量の土砂をもたらし、神戸市内を埋めつくし、一面の泥海と化しました。

この水害による本市における被害は、死者六百十六名、傷者千十一名、家屋の流失千四百十戸、埋没八百五十四戸、全半壊八千六百五十三戸、浸水家屋七万九千六百五十二戸（神戸水害誌による）という激甚なものとなりました。

この大水害における救助・救援・復旧作業は、被災直後から行政はもとより七十万人をも超えるであろう市内外の善意の方々の手で行われ、その結果本市の復興は加速度的に進みました。

この慰霊塔は、行政と市民が一体となり復興に取り組むなか、この大水害で亡くなられた方々を慰霊し、市内外からの救援活動に対して感謝の意を表わすとともに、今後長期にわたり治水・治山に力を入れ、このような災害を再び起こしてはならないという誓いを後世に伝えていくために、史跡地でもあり、特に被害が甚大であった石井川と天王谷川の合流するこの場所に、水害から三年後の昭和十六年（一九四一年）六月建立されたものです。

この説明板は、平成七年（一九九五年）の阪神淡路大震災で被災された方々の仮設住宅があった当雪御所公園の復旧整備に際し、先のこの大水害の記録を後世への教訓として継承していくために設置しました。

阪神大水害 慰靈塔

神戸ノ地 港灣ヲ前ニシ山岳ヲ後ニシ 風光明媚 氣候溫和 水陸交通ノ具 一トシテ備ハラザルハナク 稱シテ海内第一トナシ 來リ住スル者 年ニ萬ヲ以テ數フ 山ヲ削リテ屋ヲ築キ 海ヲ埋メテ樓ヲ構ヘ碧瓦 朱甍 眼ニ映ジテ燦然タリ 行客目ヲ瞠シ居民生ヲ聊セリ

測ラザリキ 昭和十三年六月下半 猛雨止マズ 七月五日ニ至リ 背面ノ連山一時ニ崩壞シ 都賀 生田 宇治 天王 石井 妙法寺等ノ河川氾濫シ 水勢峻激 大木巨石ヲ揚擲シ 隄防ヲ潰決シ 家屋ヲ流失シ全 市民戸ノ害ヲ被ムルモノ十ノ七 飲ムニ水ナク照スニ燈ナク 港巷到ル所土砂堆積シ 瀬トナリ淵トナリ行歩 自在ナラズ 唯足蹟キテ溺レンコトヲ是懼ル 事白昼ニ起レルモ 猶逃避遑ナク救援術ナク 子ヲ呼ビ親ヲ 求メ叫喚ノ聲巷ニ滿ツ 死者四百六十九人 天下ノ慘事タリ

事 天聽ニ達スルヤ 聖恩鴻大侍臣ヲ遣シ 特ニ内帑金ヲ賜ヒ 内外ノ同情翕然トシテ集リ 或ハ財ヲ輸シ 或ハ力ヲ致シ 恤問救濟到ラザル所ナク 本市官民亦痛定リテ痛ヲ思ヒ 心ヲ協ヘ力ヲ戮セ 善後ノ事誼ヲ 講ジ 百年ノ長計ヲ建テ 上ハ以テ渥澤ニ報イ奉リ 下ハ以テ市民ノ高誼ニ答エント欲ス

今ヤ漸次其ノ緒ニ就ケルモ 獨逝ケル者復生クベカラズ 靜ニココロニ之ヲ思ヘバ深慨アリ 乃チ地ヲ雪之 御所ノ舊蹟ニ相シ 慰靈塔ヲ建立シ 幽魂ヲシテ 永ヘニ歸スル所アラシメントス

夫レ水禍ハ天ナレドモ 其ノ之ヲ致ス未ダ必ズシモ 人爲ニ因ラズンバアラズ 斧斤濫ニ入りテ山骨露ハレ 野火屢発リテ地毛空シ 妄ニ地域ヲ擴メ 水ヲ壅ギ之ヲシテ激シテ 止マル所ナカラシムルハ 豈ニ其ノ性 二順フト言フヲ得ンヤ

今ヨリ以往 我等市民ト共ニ 前ニ懲リ後ヲ慎ミ 相諭シ相警メ 私利ヲ去リ禍根ヲ除キ 慘禍ヲシテ再起 セザラシメンコトヲ期ス 冀クバ在天ノ靈 降格シテ其ノ所ニ安ンジ 亦以テ我市ヲ護レト云爾

昭和十六年六月

神戸市長

勝田銀次郎建之

正五位勳五等

吉野 平藏撰文

慰靈塔

神戸市長勝田銀次郎書



慰
靈
塔



於戸ノ北港汚カ前ニシ山岳ヲ修シ内光開掃氣倍
温和水陸交通ノ具一トシテ倍ハナナルハナノ極
子海内第一トナシ成リ佳スル有年。萬ヲ以テ災
山ヲ削リテ屋ヲ築キ海ヲ避ケテ植ヲ植ヘ蒼瓦氣
眼ニ映シテ燦然ノ行客自ラ賤シ居民生コト也
測ラザリキ昭和十三年六月下半程止マク七月五
日ニ至リ背石ノ連山一時ニ崩壞シ都賀生田宇治天
正石井妙法寺等ノ河川氾濫シ水勢激激大水巨石
揚柳ノ隈防ヲ潰決シ家屋ヲ流失シ全市民戸ノ害
被ルルモノ十ノ七飲ムニ水ナク照スコ燈ヲ街本
到ル所土砂堆積ノ瀬トナリ湖トナリ行歩自在ナラ
ズ唯足踏キテ溺レンコトヲ是懼ル奉白晝ニ起レル
毛猶述遑遑ナク救拯術ヲ子ヲ呼ヒ親ヲ求メ叫喚
ノ聲巷ニ滿リ死チ四百八十九人及下ノ被害多ク
天災ニ違スルヤ 聖恩海大侍臣ヲ遣シ特ニ内帑金
ヲ賜ヒ内外ノ同情命然トシテ集リ或ハ賤ヲ輸シ或
ハ力ヲ致シ恤問放濟到ラザル所ナク本亦官民亦痛
定リテ痛ヲ思ヒ心ヲ協ヘカコ救セ事後ノ事誼ヲ
百年ノ長計ヲ達テ上ハ以テ 渥澤ニ報イ奉リ下
ハ以テ士民ノ高誼ニ答ヘント歎メ今ヤ其功其
ニ就ケルモ獨遊ケル者後生タヘカラス 報ニコ
之ヲ思ヘバ深慨アリ乃チ地ヲ雪之御所ノ修計ニ相
シ感靈塔ヲ建立シ曲地ヲシテ永ヘ一歸スル所ヲ
シメントス夫レ水禍ハ天ナレドモ其ノ之ヲ救スル
ガ必ズシモ人爲ニ因ラヌンガアラズ其ノ之ヲ入
テ山骨露ハレ野火ニ發リテ地毛空シキニ地ヲ修
メ水ヲ窒キ之ヲシテ救フ事也 井ノ水カシムル
ハ豈ニ其ノ性ニ順フテ書テ得ンヤ今ヨリ以テ
等市民。共ニ前ニ修リ後ニ修シ相諭ヲ相シテ
ヲ去リ禍根ヲ除キ後禍ヲ免ルニ再起セシメ
ト期ス事ハ在大ニ 聖降格ヲ其ノ所ニ
亦以テ災カ中ヲ救ヒル也

昭和十一年

神戶市長 磯田貞吉 謹言
若野平藏 謹言







